

東京都立杉並高等学校 令和5年度学校経営報告

校長 高橋 聡

標語の意味 【A】達成 【B】おおすね達成 【C】達成に至らず 【Y】未実施

令和5年度の目標及び方策	自己評価
1 学習指導 ＜目 標＞ 「英語教育研究推進校」の指定を受けた英語科はもちろん、あらゆる教員の教科指導力を向上させるとともに、生徒の自学自習の習慣を確立させる。昨年度から施行されている学習指導要領及び観点別評価を検討・吟味して、これからの育成すべき生徒像を明確にして教育課程の適正な実施に努める。 ＜方 策＞ (1) 教科主任会議を定期的に実施し、教科指導の課題を共有し解決する。 (2) 授業時間確保に努めるとともに、生徒が落ち着いて学習に取り組むだけでなく、ICTの活用やアクティブラーニングを取り入れた授業を実践し、活気のある授業を実践することによって、意欲的に自宅での学習にも取り組むよう指導を行う。 (3) 国語、数学、英語の3教科での少人数指導や、習熟度別少人数編成授業等の充実から生徒の学力の定着・向上させる。 (4) キャリア教育全体計画を踏まえて、学習指導要領の「総合的な探究の時間」を充実させ、大学入試改革に対応するため、総合型選抜制度に探究する力を育成する指導を展開する。 (5) 生徒の探究的な態度を育成するとともに、すべての教科で言語活動を重視し、読解力を養い、生徒の思考力、判断力、表現力を育成する。 (6) 国際理解教育の推進のために、英検やGTEC等英語の技能検定等の取り組みを充実させるだけでなく、JET(英語指導補助員)を授業で活用し、レシテーションコンテスト、スピーチコンテストで生徒の動機付けを高めながら、「英語教育研究推進校」の取り組みを進める。 (7) 日常の始業前及び放課後の補習、長期休業日中の講習を計画的、組織的に実施する。 (8) ルーブリックを活用した管理職の授業観察を積極的に実施し、教員にフィードバックを行い、生徒の学力向上と授業満足度を高める授業改善を推進する。 (9) 教員相互の授業見学や、授業改善、新教育課程編成のための校内研修を充実させる。 (10) 予備校等における教員研修に、10名の教員を対面やオンラインで指導力向上のための研修に参加させ、各教科で成果を共有させる。 (11) 英語4技能の能力の向上を目指し、レシテーションコンテスト、スピーチコンテストを継続・発展させるとともに、オンライン学習支援アプリ(スタディサプリ・イングリッシュ)を導入し、週末課題、単語テスト、英語検定の指導に活用し活用する。	【A】 【B】 【B】 【A】 【B】 【B】 【C】 【A】 【B】 【A】 【A】
2 進路指導 ＜目 標＞ 3年生が予備校や塾へ通っている率が50%以上と進学指導、受験指導が塾・予備校への依存している状態がある中、塾や予備校に頼らない進学指導の実践を目指す。そのため、3年間のキャリア教育・進路指導のさらなる充実が求められる。計画的に組織的な進路指導を充実させるとともに、高い志をもった生徒の進路実現を目指し、社会に有為な社会人を育成する。 ＜方 策＞ (1) 進路指導部主導で、第一志望の「行きたい学校」にチャレンジする組織的な指導体制を確立する。	【B】

(2) 個別面談、三者面談を各学年必ず1回実施することとし、保護者の意向も聞き取りながら、生徒一人一人の進路希望に応じた進路指導を行う。	【B】
(3) 模擬試験を年間計画に基づいて実施し、データ検証を基に分析会等を実施し、教科指導の改善、指導に反映させる。	【B】
(4) 新卒業生による合格体験座談会や同窓会の協力を得たキャリアガイダンス講座の他、大学訪問等を実施し、希望進路実現に向けた生徒の内発的動機付けを促す。	【A】
(5) 進路指導部主導により、教科ごとに、計画的、組織的な長期休業日中の講習を実施する。夏季休業中の講習については5日間を1タームとして開講する。全学年での講座数及び生徒参加人数を調査し、報告する。	【B】
(6) 自習室及び進路指導室の充実を図る。	【B】
(7) 3年間を見据えたキャリア教育全体計画をもとに、公民としての権利と義務を自覚させ、18歳成年制度を視野に入れた指導を行う。	【B】
(8) 学力向上集中講座等を実施し進路指導の充実を図る。	【B】
(9) 「総合的な探究の時間」を活用した課題論文作成指導と小論文対策を目的とした、「総合的な探究の時間」の計画的で組織的な改革に関する委員会を設置し、立案したので、今年度より実施する。	【A】
3 生活指導	
<目 標>	
健全な市民を育成するために、18歳成年制度を視野に入れて、組織的な指導体制で、責任ある社会人としての生徒の規範意識を涵養する。	
<方 策>	
(1) 学校全体で、挨拶、時間厳守等社会人として通用するマナー、ルールを身に付けさせるとともにスマートフォンを適切に利用する態度を育成する。	【A】
(2) 身に付けさせる規律・規範計画及び特別指導の指導計画を基に、生活指導を行う。	【B】
(3) 校内美化を徹底し、教育環境整備に取り組む。	【B】
(4) 自転車の交通ルール・マナー指導を徹底するとともに、危険回避能力を育成する。	【B】
(5) 学校評価アンケート、体罰アンケート、いじめアンケートを効果的に活用して、きめ細かい生徒理解に努め教育相談機能を充実させる。	【A】
(6) 自他の存在及び生命を尊重する態度を育成して、自殺予防対策の教育を進めるとともに、男女平等の精神に基づいて、豊かな男女の人間関係を築けるようにする。	【B】
(7) スクールカウンセラーと連携して体罰根絶、いじめの未然防止、早期発見・対応を行う。	【B】
(8) 公民としての権利と義務を自覚させ、主権者教育、消費者教育、租税教育等を充実させるとともに、防災教育の充実を図り、「自助」「共助」の精神を養う。	【B】
(9) 部活動及び体育の授業を軸に、生徒の基礎体力向上を図る。	【A】
4 特別活動・部活動	
<目 標>	
生徒が充実した学校生活を送ることができるよう学校行事、部活動等の特別活動を活性化させるとともに、「海外学校間交流推進校」として国際理解教育を推進し、グローバルな人材を育成する。	
<方 策>	
(1) 体育祭、文化祭、合唱祭等の学校行事への取り組みを通して各種のリーダーを育成し、自主的、主体的な活動を推進する。	【A】
(2) 生徒会活動は、学校見学会、説明会、生徒会予算決定・執行等大変活発に活動しており、今後は生徒の自主性を高める生徒会の運営と、ボランティアや募金活動を活発に実施でき	【B】

るように教員が指導していく。 (3) 部活動指導員を活用して部活動の充実を図るとともに、自分たちで目標を設定し、自主性を高める部活動の運営を推進し、体罰や暴力的指導や行き過ぎた指導のない計画的な部活動運営を行い、コロナ感染症等により下降している部活動加入率を向上させる。 (4) 部活動顧問と保護者間の連携を図るため、定期的に各部活動保護者会を実施する。 (5) メディアリテラシー教育としてのセーフティ教室、薬物乱用防止等の指導を通して、心身共に健全な生徒を育成する。 (6) 文化・スポーツ等特別推薦の充実に向けた組織的体制を構築し、部活動を活性化させる。 (7) オリンピック・パラリンピック教育を充実させ、そのレガシーの構築の取組によって「海外学校間交流推進校」として豊かな国際感覚を育成する。 (8) ニュージーランド及び台湾等の姉妹校交流等により、国際理解教育を一層充実させる。	【A】 【B】 【A】 【B】 【B】 【B】 【A】
5 募集・広報活動 <目 標> 都教育委員会からの各種指定校の取り組みを活用して、学校の特色を積極的に情報発信する。 <方 策> (1) ホームページの更新を随時行い、日常の教育活動をタイムリーに情報発信する。 (2) 近隣地域との交流を積極的に行い、本校の良さや特色をPRする。 (3) 学校要覧は学校案内の内容を年度内に改編し、来年度に備える。 (4) 学校内外における学校説明会、学校見学会、授業公開及び塾対象説明会を計画的かつ組織的に実施し、生徒の生き生きとして、礼儀正しく活動する姿を見せることができるように生徒主体の説明会や学校行事を実施する。 (5) 広報活動をより充実させて、在校生や中学生に向けて情報発信を積極的に行うため、HPリニューアルと充実、学校案内の刷新、HPのタイムリーな新情報の公開、Twitterの活用、YouTubeへの動画配信、「まなびゅー」活用などを推進する。	【B】 【A】 【A】 【A】 【B】
6 学校経営・組織体制 <目 標> 教育施策や、都教育委員会からの各種指定校の取り組みを活用して、教職員の経営参画意識と協働意識を醸成する。さらに、グローバル人材の育成を目指し、国際理解教育と海外学校間連携事業の推進を学校全体で、組織的に取り組む。 <方 策> (1) 国や都の「働き方改革」の推進を受け、休日の部活動指導や、長時間勤務を減らして教職員の勤務の軽減を図る。学校閉庁日は、長期休業期間中に適宜配置する。 (2) 業務の効率化を進め、教職員の一人一人のライフ・ワーク・バランスを実現する。 (3) 台湾への修学旅行、ニュージーランドへの語学研修旅行、オリンピック・パラリンピック教育及び海外姉妹校交流の充実、外国語(英語)科教員等派遣研修への派遣等をおし、レガシーの構築を目指して、教職員の国際感覚を培う。 (4) 経営企画室の業務進行管理と合理化を進め、経営参画型の経営企画室として機能させる。 (5) 教育目標及び学校経営計画実現のために、5つの分掌の他、4つのプロジェクトチーム(PT)(学力向上、探究学習、グローバル人材育成、制服検討)を活用して学校の課題を解決する。 (6) 企画調整会議、職員会議等、会議時間50分以内を目標にし、業務の効率化を図る。 (7) 計画的なOJT、校内研修を実施し、教員の人材育成能力及び専門性を向上する。 (8) ニュージーランドへの語学研修旅行は「海外学校間交流推進校」として、今後の都立高校	【B】 【B】 【A】 【A】 【A】 【A】 【A】 【A】

間の連携・協同の教育活動の在り方について検討していく。 (9) TGG（東京グローバルゲートウェイ）を系統的に活用するとともに、台湾への修学旅行、イングリッシュキャンプ、ニュージーランドへの語学研修、次世代リーダー育成道場による海外留学、留学生の受け入れ。トルコ共和国大使館をはじめ大使館との交流等を通じてグローバル人材の育成を進める。英語科を中心とした英語検定試験の指導、オンラインを活用した英会話、スタディサプリ・イングリッシュを活用したオンライン英語学習などを実施し、英語学習の動機付けを強化する。 (10) グローバル人材育成のための国際理解教育に関する充実した企画を推進するため、海外大学進学説明会、海外大学や国内の国際理解に造詣の深い講師を招いて国際理解の後援会、オンラインによる海外交流活動の推進、HP に定期的に活動を掲載、海外リーダーシップ研修実施、エンパワーメントプログラム実施等を企画していく。	【A】 【A】
---	-----------------------

数値目標に対する結果

令和2年度の数値目標項目	5年間の数値動向	目標	結果
1 卒業生の進路決定率	85→79→84→84⇒89.5	90%	89.5%
2 センター試験5教科型受験者数	6→10→8→16⇒7	10名	7名
3 国公立合格者	4→3→2→0⇒4	5名	4名
4 早慶、GMARCH合格者数	20→21→47→20⇒18	30名	18名
5 長期休業中の講座数	109→95→72→48⇒31	100講座	31講座
6 教科ごとの教科研修会	3→5→3→5⇒7	5回	7回
7 生徒の授業満足度	57.0→75.5→81.1→79.6⇒78.0	80%	78.0%
8 生徒の自宅学習時間	1→1→1→1.5→1.9⇒1.8	2時間	1.8時間
9 生徒・保護者の学校満足度	83.0→84.5→72→81.6⇒78.1	90%	78.1%
10 部活動加入率	96→90→90→85.5⇒82.1	90%	82.1%
11 学校説明会参加者数	3034→2985→1597→1891⇒3921	3500名	3921名
12 中学校への訪問数	85→79→未実施→140⇒1	100件	1件
13 ホームページ1日アクセス数	1000→1100→1100→717⇒2207	1000件	2207件
14 地域との交流	5→5→未実施→7⇒8	5回	8回
15 応募倍率（推薦）	2.86→3.18→2.52→2.7→2.14⇒3.63	3.5倍	3.63倍

16 応募倍率（一般）	1.39→1.17→1.16→1.5⇒1.7	1.5倍	1.7倍
17 1クラス1日の遅刻者	1.8→0.85→0.08⇒1.8	1名	1.8名
18 勉強以外のスマホ利用時間	令和2年度から 2→2⇒2	2時間以下	2時間

【令和5年度の考察】

本校の課題に関しては、（１）進学実績のさらなる向上、（２）生徒募集倍率の向上、（３）部活動・学校行事の活性化と部活動部の適正な運営、（４）英語教育研究推進校・海外学校間交流推進校（国際交流リーディング校）の指定校として国際理解教育の再開と推進、（５）「総合的探究の時間」の適正な計画と実践が挙げられる。

（１）の進学指導のさらなる向上のためには、生徒の学力・教員の授業力の向上が必要であると考えている。生徒の学力の向上のため、生徒の授業満足度を上げたいと考えており、生徒の授業満足度は、79.6%から78%に下降した。生徒の学力の向上には、教員の授業力の向上が欠かせないとする。今年度、教員の授業力の向上のため、管理職による授業観察では、あらかじめルーブリックを提示し、それに沿ったコメントを記入しフィードバックを行った。ICTの活用やアクティブラーニングを取り入れた授業改善が進み、効果があがっており、教員からの振り返りも91.3%が「良い」と回答していることから、生徒からからもっと高い満足度を期待できるので、生徒の授業評価等の質的分析を推進し、授業改善を行っていく必要がある。さらに、各教科主任を中心に校内の相互授業参観と教科会が実施されるようになった。また、予備校等外部機関における教員研修に10名の教員が対面やオンラインで研修に参加し、各教科で成果を共有させた。教科主任会ではほぼ月1回以上実施されており、今年度は特に教育課程に関する検討と観点別評価の適正な実施と教科間の格差が出ないように検討・調整を行った。教科主任会議、教科会は年間行事予定に掲載し、今後は進路部主催の模試分析会との連携を深めて、模試の解き直しや分析会の成果を授業に落とし込む工夫が必要になってくる。その他、オンライン学習支援アプリ（スタディ・サプライングリッシュ）の導入と活用、家庭学習時間の確保の試み、生徒の授業での集中を高めるための研修会の実施、図書館、自習室、職員室前の長テーブルでの質問コーナーが生徒で埋まるような活用の工夫、今後の土曜授業・土曜講習検討の導入の検討等を含めて、学習指導、進路指導に関連付けて、来年度実施または検討を進めたい。

予備校や塾へ通っている率が3年生で50%以上と進学指導、受験指導が塾・予備校への依存している状態がある中、塾や予備校に頼らない進学指導の実践を目指す。そのため、3年間のキャリア教育・進路指導のさらなる充実が求められる。計画的に模擬試験が実施され、解き直し等も学年中心に行われており、模擬試験の結果分析会も実施されている。しかし、参加教員数が少ないことと学年を担当している教員や教科会で結果や学習の弱点や授業の改善点が周知されていないため、効果が上がっていない。また、学校でのデータ分析と定点観測を実施し、授業への反映させる必要がある。

また、長期休業中の講習も行われているが、講座数も31講座と激減しており、生徒参加者数も少ないので、生徒への周知の工夫、講座の内容の検討、講座への生徒の期待感の醸成が必要である。来年度は、1年次のHR合宿の再開を見据えてスプリングキャンプを計画し、勉強の仕方やどれくらいの時間、家庭学習をしたら良いか周知する。また、2年生のオータムキャンプでは、受験生としての0学期の心構えとこれから何をすべきか等受験生の心構えを周知し、中だるみを防ぎ、少しでも早く受験体制に入るてだすけをする。さらに、3年生の勉強合宿の実施を提案し、まずは学校において通学方式で実施を試みる。その他、朝学習の全学年実施、放課後講習の組織的な実施、第一志望宣言など高い目標持続への取組、ポートフォリオ、キャリア・パスポートによ

る生徒の進路情報共有の推進等も検討していく。また、キャリア教育の推進・充実に向けて、総合型入試受験者が昨年度から増加し続けていることと生徒の生涯にわたる探究テーマを問い続ける必要性があることから、「総合的な探究の時間」を活用した課題論文作成指導と小論文対策を目的とした。「総合的な探究の時間」の計画的で組織的な改革に関する委員会を設置し、進路部を中心に昨年度から実施している。

(2) 生徒募集倍率の向上は、広報活動を推進・充実することで、成果を上げた。今年度、見学会、説明会、授業公開、個別相談会、合同説明会は、オンラインでの予約で参加者数を把握したが、当日の参加者も受け入れるようにした。設営、説明、司会に生徒会と部活動の部員に参加を依頼し、生徒会が中心となって実施した。生徒の生き生きとして、礼儀正しい態度を見て、中学生とその保護者が信頼してくれたためか、募集倍率は、推薦に基づく選抜が、2.14 倍から 3.63 倍に、学力検査に基づく選抜が 1.5 倍から 1.7 倍になり、2 年連続の上昇となった。今後は、広報活動をより充実させて、在校生や中学生に向けて情報発信を積極的に行うため、HP リニューアルと充実、学校案内の刷新、HP のタイムリーな新情報の公開、X (旧 Twitter) の活用、YouTube への動画配信、「まなびゅー」活用などを検討する。

(3) の特別活動・学校行事の充実に関しては、新型コロナウイルス感染症の制約がなくなり、体育祭(保護者の参観)、杉高祭(保護者およびオンライン予約した中学 3 年生の参観可能)、合唱祭(保護者のみ参観可能、入れ替え制)と 3 大行事を全て適正に実施することができたのは、本校の行事と伝統を引き継ぐためにも高く評価できる。学校評価アンケートでも生徒の自主性を高める学校行事の運営の満足度は、88%と高かった。来年度、観戦や参観者は制限をなくし、多くの参観者が来場した場合を想定して準備を行い、活気のあるものにしていく。部活動の充実に関しては、働き方改革への取組もあり、教員に負担を強いることができない中、教員が生徒のために積極的に取り組んだ部活動が多かった。これからは、授業同様、自分たちで目標を設定し、自主性を高める部活動の運営を推進していく。新型コロナウイルス感染症で下降気味の部活動加入率を向上し、学校評価アンケートの生徒の部活動満足度を確認しながら推進していく。生徒会活動は、学校見学会、説明会、生徒会予算決定・執行等大変活発に活動しており、今後は生徒の自主性を高める生徒会の運営と、ボランティアや募金活動、校則や制服の改善等を議論するなど活動を活発に実施できるように教員が指導していく。

(4) 国際理解教育・海外学校間連携事業の推進に関しては、今年度 4 年ぶりに海外へ行っの交流や体験をすることができた。海外修学旅行に関しては、2 年生(70 期生)は 11 月に 3 泊 4 日で台湾修学旅行を実施し、姉妹校と交流し、現地の大学生と B&S プログラムで交流する機会をもつことができ、普段養った英語力を試すことができた。また、ニュージーランド語学研修に関しては、3 月 18 日～28 日に実施し、姉妹校の生徒の自宅にホームステイし、現地の学校で語学研修と体験授業を受講することができた。また、東京都教育委員会主催の次世代リーダー育成道場は 1 名が合格、TGG 体験、英検及び GTEC 受験指導、イングリッシュキャンプ、台湾とのオンライン国際交流、台湾修学旅行に向けた現地講師による講習は、計画通り実施することができたので、生徒の英語学習の動機付けや国際理解教育に関する興味・関心を高めることができた。グローバル人材育成のための国際理解教育に関する充実した企画を推進するため、海外大学進学説明会、海外大学や国内の国際理解に造詣の深い講師を招いて国際理解の講演会、オンラインによる海外交流活動の推進、HP に定期的に活動を掲載、海外リーダーシップ研修実施、エンパワーメントプログラム実施等を企画していく。今後、今年度の実践の振り返りと課題を総括し、来年度の学校経営計画を作成に生かしていく。